

外気温感応型フィルムの効果確認試験

JA新おたる

二川 英司



慣行①



慣行②

試験目的

外気温感応型フィルムの効果確認試験

試験作物 及び品種

ミニトマト

試験資材 及び数量(規格)

調光ライト

慣行資材

コーティング5+1、カゲナシ、美サンランアグリスター

資材使用期間

3月上旬～11月中旬

試験区面積

300㎡



試験①



試験②

試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)
変化はなかった。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響
大きな差は無かった。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について
【優位点】: 判断できなかった。
【問題点】: 価格が高い。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について
変化はなかった。
- (5)促成・抑制効果について
変化はなかった。
- (6)保温効果について
変化はなかった。
- (7)雑草・病害虫の発生について
変化はなかった。

モニター感想

作付けは一番最後のハウスで展張した。
今年は試験区、慣行区との差が分かりにくく、コスト以上のメリットは感じられなかった。
次年度も費用対効果を確認していきたい。

JA担当者の感想(営業課 仁部課長)

今年度は晴天に恵まれ調光フィルムの特性が活かされる場面が少なく、慣行との差を感じる事が出来なかった。曇天の時期に効果が発揮される資材である為、ミニトマトでは育苗期からの使用をする事が望ましいと感じた。調光フィルムは春イチゴや花卉などに使用の方が良いと思うが、資材コストが高すぎる為、積極的に勧めるには難しいと思う。

今後の使用について

継続して使用したい。